

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 11 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K12995

研究課題名(和文) 第一次世界大戦期の世界的「人の移動」に関する基礎研究：アジア・欧州間関係を中心に

研究課題名(英文) Study of worldwide migration during the First World War; mainly focused on the relations between Asia and Europe

研究代表者

奈良岡 聡智 (Naraoka, Sochi)

京都大学・法学研究科・教授

研究者番号：90378505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、第一次大戦期にアジア・ヨーロッパ間で発生した大規模な「人の移動」について、広汎な一次史料に基づいて検討を行った。主に、ヨーロッパ諸国に在住したアジア人(主に日本人、中国人)、日本、中国に在住したドイツ人、オーストリア人、イギリス人について取り上げ、捕虜、抑留者、敵国からの退去者、難民、義勇兵などの動向とその国際関係への影響について明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examined the migrations between Asia and Europe during the First World War, on the basis of the researches on various primary resources. It revealed the situations of prisoners, internees, refugees, volunteer soldiers etc., mainly analyzing 1)the Japanese and Chinese people in European countries and 2)the German, Austrian and British people in Japan and China.

研究分野：日本政治外交史

キーワード：第一次世界大戦 捕虜 抑留 難民 移民 留学 退去

## 1. 研究開始当初の背景

1) 第一次世界大戦(以下、大戦)は、欧米の歴史研究では「現代の起点」を画する大事件と位置づけられ、大戦が国際政治や各国の政治・経済・社会にもたらした巨大な変化について、早くから研究が進められてきた。2014年が開戦百年に当たったということもあり、欧米では第一次世界大戦の見直しが急速に進んでおり、その成果は、例えば大部の論集である Jay Winter (ed.), Cambridge History of the First World War, 3vols(2014) などで続々と発表されている。

2) 近年、欧米の大戦研究は、従来あまり研究対象とされてこなかった分野にまで広がっている。その一つで、注目すべき業績が次々と生み出されているのが、捕虜、民間人抑留者、移民、難民といった「人の移動」に関する研究である。例えば、前述の論集では、第3巻「市民社会」でこれらの問題を扱う章が設けられ、大戦中のヨーロッパ各国で社会の基底を大きく揺るがすほど大きな人口の変化や民族の移動が起こっていたことが詳細に明らかにされている。

3) 一方、アジアの大戦経験、すなわち大戦へのアジアの関わりと、大戦がアジアに及ぼした衝撃・影響に関する研究は、これまで低調であったと言わざるを得ない。最近、研究代表者も参加した京都大学人文科学研究所主催の大戦に関する共同研究の成果が公刊されたものの(山室信一他編『現代の起点第一次世界大戦』全4巻、2014年)、大戦中のアジアについては、未解明の点が多く残されている。大戦期の「人の移動」に関して、日本で収容されたドイツ人捕虜、ヨーロッパに派遣されたインド兵や中国人労働者といったごく限られた事例については研究が行われているものの、アジア・ヨーロッパ間の「人の移動」の全体像は明らかになっていない。この点に着目したのが、本共同研究開始のきっかけである。

## 2. 研究の目的

1) 本研究は、上述した問題意識のもとで、大戦期に発生した大規模な国際的「人の移動」のうち、従来明らかにされてこなかったアジア・ヨーロッパ間関係に焦点を当て、検討を行った。具体的には、大戦期にヨーロッパ諸国に在住したアジア人(主に日本人、中国人)、日本、中国に在住したドイツ人、オーストリア=ハンガリー人、イギリス人について取り上げ、彼らの活動の実態及びそれらの事象の相互関係について検討すると共に、それがアジア・ヨーロッパ間の国際関係に及ぼした影響について考察した。

2) 従来、大戦がアジアに及ぼした影響は小さかったというのが通説的理解であった。直接の戦場となったヨーロッパに比べて、アジ

アへの影響が相対的に小さかったのは確かだが、従来の研究は、大戦がアジアに及ぼした多様なインパクトをあまりにも過小評価してきたきらいがある。アジア・ヨーロッパ間の「人の移動」について見ると、少なくとも、大戦を契機にアジア・ヨーロッパ間の人の往来のパターンが大きく変化したこと、大戦中もアジア諸国から多くの人々がヨーロッパ諸国に渡航していたこと、彼らが様々な大戦経験をして、戦中から戦後にかけてそれを本国に持ち帰ったことが指摘できる。しかし、こうした「人の移動」の実態がどのようなものであったのかは、まだ十分に明らかになっていない。本研究では、第一次世界大戦期の捕虜、抑留者、敵国からの出国者、難民などに主に着目しつつ、「20世紀」の出発点におけるアジア・ヨーロッパ間関係の「人の移動」の構造を明らかにすることを目的とした。

## 3. 研究の方法

1) 本研究を実施するためには、各国の研究・史料状況に通暁している研究者が、多言語の史料にアクセスすることが必要である。そのため、日本の政治・外交が専門の代表者に加え、オーストリア政治が専門の梶原、インド政治が専門の上田が分担者として参加し、協働しながら研究を進めた。

2) 2014年の開戦百年以降、ヨーロッパでは様々な学会や展示が開催され、大戦関係の新史料や新たな研究成果にアクセスしやすい状況が続いている。本研究ではこの好機を活かし、日本のみならず、イギリス、ドイツ、オーストリアなどヨーロッパ各地の一次史料を広く収集・調査した。また、ヨーロッパ在住の研究者からの協力を得て、最新の研究・史料情報を継続的に入手することにも努めた。さらには、英語での研究成果発信にも積極的に取り組んだ。

## 4. 研究成果

1) 国内・海外における資料調査を広く実施し、一次史料(新聞、雑誌、公私文書)を調査・収集・分析し、その成果を学術論文として発表した。このうち、在オーストリア日本人の抑留経験に関わる一次史料については翻刻し、資料紹介論文として刊行した。

2) 未公開史料「岡部長景関係文書」の整理を進め、主要部分を翻刻・校訂し、解題を付した『岡部長景巢鴨日記』として公刊した。

3) 研究代表者(奈良岡)は、英語での研究成果公表に力を入れ、研究1年目に、オックスフォード大学(イギリス)、ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン(アイルランド)、ルーヴェン・カトリック大学(ベルギー)、バルセロナ国際問題研究所(スペイン)、ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学(イタリア)、

2 年目にペンシルベニア大学、ジョージ・ワシントン大学、オハイオ州立大学(アメリカ)、3 年目にヘブライ大学(イスラエル)、リスボン新大学(ポルトガル)、極東連邦大学、ロシア科学アカデミー極東支部・極東民族歴史考古学民俗学研究所(ロシア)、ワルシャワ大学(ポーランド)、ハイデルベルク大学(ドイツ)、マルタ大学(マルタ)、ケンブリッジ大学(イギリス)で講演を行った。これらの講演では、第一次世界大戦と東アジアの関わりについて講演を行うとともに、各国の研究者と議論や意見交換を行い、最新の研究状況の把握や新史料の発掘・調査に努めた。

4) 2015 年 6 月 20 - 21 日には京都大学において国際ワークショップ「第一次世界大戦と東アジア」を開催した。現在このワークショップおよびその後の史料調査等の成果を基礎として、論文集を出版する準備を進めている。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 21 件)

奈良岡聰智、七十年目の新発見 “A 級戦犯” 幻の肉声、文藝春秋、93 巻 10 号、査読無、2015 年、206 - 209 頁

奈良岡聰智、「日中対立の原点」としての対華二十一カ条要求、中央公論、129 巻 9 号、査読無、2015 年、140-147 頁

Sochi Naraoka, Japan's First World War-Era Diplomacy, 1914-1915, in Oliviero Frattolillo and Antony Best eds, *Japan and the Great War*, Palgrave Macmillan, 査読無、2015, pp.36-51

奈良岡聰智、岡部長景日記(昭和二〇~二二年)、尚友倶楽部・奈良岡聰智・小川原正道・柏原宏紀編『岡部長景兼鴨日記 附岡部悦子日記、観堂随話』、芙蓉書房出版、査読無、2015 年、281 - 305 頁

梶原克彦、0・クロップと総ドイツ主義 オーストリア国民論の系譜学 四、愛媛法学会雑誌、42 巻 1 号、査読無、2015 年、215-226 頁

梶原克彦、(翻訳)ハンス・シュミット『小ドイツ主義歴史観の創設者たち』、愛媛法学会雑誌、42 巻 1 号、査読無、2015 年、227-243 頁

・上田知亮、アジア通貨危機と核実験 1990 年代インド政治の継続性、東洋法学、59 巻 2 号、査読無、2015 年、40 - 15 頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦と日本、アステイオン、84 号、査読無、2016 年、222-227 頁

Naraoka Sochi and Haruna Asonuma, Sir Horace Rumbold and Japan (1909-1913), STICERD International Studies Discussion Papers(London School of Economics and Political Science), IS/2016/586, 査読無、2016, pp.1-18

奈良岡聰智、還暦を迎えた遠洋練習航海、公研、54 巻 11 号、査読無、2016 年、6 - 7 頁

梶原克彦、シュツセル内閣期の OEVP オーストリアにおける保守政党の「復権」をめぐり一考察、愛媛大学法文学部論集 社会科学編、42 号、査読無、2017 年、23 - 40 頁

奈良岡聰智、第一次世界大戦初期の日本における政党系新聞の外交論 大戦勃発から青島占領まで、法学論叢、182 巻 4・5・6 号、査読無、2018 年、198 - 287 頁

奈良岡聰智、吉野作造の第一次世界大戦論、吉野作造研究、13 号、査読無、2017 年、22 - 29 頁

梶原克彦・奈良岡聰智、第一次世界大戦と在澳日本人の抑留問題(一)、愛媛大学法文学部論集・社会科学編、43 号、査読無、2017 年、1 - 29 頁

梶原克彦・奈良岡聰智、第一次世界大戦と在澳日本人の抑留問題(二)、愛媛大学法文学部論集・社会科学編、44 号、査読無、2018 年、1 - 31 頁

奈良岡聰智、マルタと日本、知られざる交遊、文藝春秋、95 巻 8 号、査読無、2017 年、82 - 84 頁

奈良岡聰智、青島訪問記、公研、55 巻 5 号、査読無、2017 年、6 - 7 頁

奈良岡聰智、ウラジオストック訪問記、公研、55 巻 11 号、査読無、2017 年、6 - 7 頁

梶原克彦、第一次世界大戦におけるオーストリア=ハンガリーの捕虜・民間人抑留政策：日本人抑留者の事例を中心に、愛媛法学会雑誌、44 巻 1・2 号査読無、2017 年、41 - 65 頁

梶原克彦、オーストリア=ハンガリーにおける敵国民間人の抑留・拘禁と解放：日本人抑留者の事例を中心に 二、愛媛法学会雑誌、44 巻 3・4 号、査読無、2017 年、1 - 28 頁

21 上田知亮、[書評]近藤則夫『現代インド政治 多様性の中の民主主義』(名古屋大学出版会、2015年)、アジア・アフリカ地域研究(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)、17巻1号、査読無、2017年、103-105頁

[学会発表](計22件)

Sochi Naraoka, The First World War and Japan, Lecture at Department of Asian and North African Studies(招待講演), 26<sup>th</sup> Nov. 2015, Ca' Foscari University of Venice, Italy

奈良岡聡智、第一次世界大戦と日本、欧州研究会議(ERC)プロジェクト「日本帝国の崩壊と戦後東アジアにおける正当性獲得に向けた闘争」招待講演(招待講演)(国際学会)、27<sup>th</sup> Nov. 2015、University of Cambridge, UK

Sochi Naraoka, Japan's First World War Diplomacy: The Issuing of the "21 Demands" to China 1915, Seminar at Trinity College Centre for War Studies with the Centre for Asian Studies(招待講演)(国際学会)、4<sup>th</sup> Feb. 2016, Trinity College Dublin, Ireland

奈良岡聡智、第一次世界大戦期の日本外交:「二十一カ条要求」の問題を中心として - 新史料に基づく再検討、人文学部(Faculty of Arts)における招待講演(招待講演)、25<sup>th</sup> Feb. 2016、KU Leuven, Belgium

Sochi Naraoka, Japanese Diplomacy during the First World War and the Origins of the Dispute regarding the Interpretation of World War History in East Asia, Challenges of Japan's Foreign Policy in Asia Pacific(招待講演)(国際学会)、10<sup>th</sup> March 2016, Barcelona Centre for International Affairs(CIDOB), Spain

Sochi Naraoka, World War I, the Twenty-One Demands to China and Britain, International workshop: Representations of China in a Changing World Order, 1915-1949: New Research Perspectives in Italy and Japan(招待講演)(国際学会)、17<sup>th</sup> March 2016, Ca' Foscari University of Venice, Italy

Sochi Naraoka, Japan's Twenty-One Demands and Their Impact on Sino-Japanese Relations, 1914-1918: New Research on British Sources, The European Association for Chinese Studies(国際学会)、26<sup>th</sup> Aug. 2016, St Petersburg University, Russia

奈良岡聡智、第一次世界大戦と日本 - 国際協調外交の起点、The Penn Forum on Japan "Road to the Pacific War in Recent Historiography"(招待講演)(国際学会)、3<sup>rd</sup> Nov. 2016, University of Pennsylvania, USA

奈良岡聡智、第一次世界大戦と日本 - 国際協調外交の起点、“JAPAN LIBRARY” Lecture Event "Road to the Pacific War in Recent Historiography"(招待講演)(国際学会)、4<sup>th</sup> Nov. 2016, The George Washington University, USA

Sochi Naraoka, WWI and Japan---the starting point of International Cooperation Diplomacy, IJS(The Institute for Japanese Studies) Lecture "Road to the Pacific War in Recent Historiography"(招待講演)(国際学会)、8<sup>th</sup> Nov. 2016, Ohio State University, USA

梶原克彦、オーストリアの保守政党復権か凋落か、日本比較政治学会、2016年6月25日、京都産業大学

梶原克彦、第一次世界大戦と捕虜 独逸および日本における捕虜取り扱いを中心に、愛媛大学法文学部・岩手大学人文社会科学部学術交流公開講演会、2017年3月18日、愛媛大学

上田知亮、西ベンガル州における選挙と政党政治、インド州政治研究会、2016年10月1日、愛媛大学

Sochi Naraoka, The First World War and Japan: From Territorial Expansionism to International Cooperation, The International Conference “Officers, Adventurers and Statesmen: Reconsidering Militarism in 20th Century”(招待講演)(国際学会)、19<sup>th</sup> June 2017, Hebrew University of Jerusalem, Jerusalem, Israel

Sochi Naraoka, Japan's Twenty-One Demands and Their International Impact: New Research on British Sources, EAJS2017 15th International Conference of the European Association for Japanese Studies(国際学会)、2<sup>nd</sup> September, 2017, New University of Lisbon (Universidade NOVA de Lisboa), Lisbon, Portugal

Sochi Naraoka, From “Antagonism” to “Friendship”: Rethinking of Russo-Japanese Relations after the Russo-Japanese War(招待講演)、16<sup>th</sup> October 2017, Far Eastern Federal

University, Vladivostok, Russia

Sochi Naraoka, From “Antagonism” to “Friendship”: Rethinking of Russo-Japanese Relations after the Russo-Japanese War (招待講演)(国際学会), 17th October 2017, Institute of History, Archaeology and Ethnography of the Peoples of the Far-East, Far-Eastern Branch of the Russian Academy of Sciences(RAS), Vladivostok, Russia

Sochi Naraoka, The First World War and Japan: from a new perspective (招待講演), 23rd November 2017, University of Warsaw, Warsaw, Poland

Sochi Naraoka, The First World War and Japan: from a new perspective (招待講演), 24th November 2017, University of Heidelberg, Heidelberg, Germany

Sochi Naraoka, Guardians of the Mediterranean: the Japanese Navy in Malta during the First World War (招待講演), 27th November 2017, University of Malta, Malta

21 Sochi Naraoka, Historiography of POW and Civilian Internees in Japan (国際学会), The International Workshop “Prisoners of War and Civilian Internees from the Viewpoint of East Asia”, 17 March 2018, University of Cambridge, Cambridge, UK

22 上田知亮, 西ベンガル州におけるゴルカランド運動と言語問題、インド州政治研究会、2018年1月28日、津田塾大学

〔図書〕(計7件)

尚友倶楽部・奈良岡聰智・小川原正道・柏原宏紀編『岡部長景兼鴨日記 附岡部悦子日記、観堂随話』、芙蓉書房出版、査読無、2015年、326頁

養原俊洋・奈良岡聰智(編著)、ハンドブック近代日本外交史: 黒船来航から占領期まで、ミネルヴァ書房、査読無、2016年、356頁

Antony Best ed., *Britain's Retreat from Empire in East Asia, 1905-1980* (奈良岡聰智担当範囲: Sochi Naraoka, Japan's Twenty-One Demands and Anglo-Japanese relation, pp.35-56), Routledge, 査読無、2017, 213 pages

玉田芳史(編著)、政治の司法化と民主化(上田知亮担当範囲: 161-188頁(第7章「インドにおける政治の司法化と司法の独立: コ

レージアム体制と第99次憲法改正」))、晃洋書房、査読無、2017年、280頁

筒井清忠(編)、昭和史講義3-リーダーを通して見る戦争への道(このうち奈良岡聰智担当部分: 「加藤高明-二大政党政治の扉」17-34頁)、筑摩書房、査読無、2017年、302頁

公益財団法人東洋文庫(監修)、岡本隆司(編)、G・E・モリソンと近代東アジア: 東洋学の形成と東洋文庫の蔵書(奈良岡聰智担当範囲: 97-133頁「二十一カ条要求とモリソン」)、勉誠出版、査読無、2017年、289頁

インド文化事典編集委員会(編)、インド文化事典(上田知亮担当範囲: 30-31頁、第1章第14節「連邦制」、280-281頁、第8章第1節「社会-宗教改革運動」)、丸善出版、査読無、2018年、806頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

ホームページ等 特になし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

奈良岡聰智(Naraoka Sochi)  
京都大学・法学研究科・教授  
研究者番号: 90378505

(2) 研究分担者

梶原克彦(Kajiwara Katsuhiko)  
愛媛大学・法文学部・准教授  
研究者番号: 10378515

(3) 連携研究者

上田知亮(Ueda Tomoaki)  
東洋大学・法学部・准教授  
研究者番号: 20402943

(4) 研究協力者

マハン・マーフィー(Mahon Murphy)  
トリニティ・カレッジ・ダブリン研究員